

神戸での貧者救済から100年

賀川豊彦たたえ事業

ポ
ン
シ
年
来
著



賀川豊彦

社会運動家として知られる賀川豊彦（二八八八—一九六〇年）の神戸での活動百周年に合わせて事業を展開する「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会」が十三日、神戸市

内のホテルであり、二〇〇六年度のノーベル平和賞を受賞したバンクグラテシユの経済学者ムハマド・ユヌス氏を招いたシンポジウムなどの計画を明らかにした。

賀川は一九〇九（明治四十二年十二月、神戸のスラム街で社会事業を始めた。来年で丸百年となるのを機に、コープこうべなど関係団体が集まり記念事業を展開する。この日は主な事業の説明があり、建設中の新賀川記念館の報告もあった。

ユヌス氏の講演などがあるシンポジウムは三月七—九日に神戸大などで開き、賀川が貧困者への経済支援に取り組んだことを紹介。貧困者への小口融資制度を考案し、成果を挙げているユヌス氏の活動とも比較し、支援のあり方を考える。また、代表作「死線を越えて」の復刻版が来春出版される。来年十二月にある式典では、晩年の賀川と親交のあった聖路加国際病院の日野原重明名誉院長が講演をする。

あいさつに立った神戸YMCA顧問で実行委の今井鎮雄委員長（八八）は「賀川の活動内容を現代化し、次の世代に神戸から発信していきたい」と話した。